



広島女学院同窓会佐伯地区だより

二〇一二年 聖句

7 求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。8 だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。

ルカによる福音書十一章九—一〇節

二〇一二年 聖句

地区長 内山豊子

新年度を迎えましたが、皆様にはお変わりございませんか。東日本大震災からも一年以上が経ちました。被災者の方々にも、そうでない我々にも月日は容赦なく同じように過ぎ去ってゆきました。被災者の方々のこの一年はいかばかりであったろうかと察せられます。同じ国内のこととはいえ、遠く離れた所での出来事で、時が経ると共に、つらい思いが消えてしまいがちになるのは申し訳ない事と思えます。私達「あやめ会」からは、しばらくは義援金をお送りして、少しでも被災された方達に寄り添えればと思います。母校広島女学院は百二十五年という長い年月を経て現在なお元気に歩み続けています。今年度から大学は長尾学長の下、新体制でスタートいたしました。視覚、聴覚その他に障がいを持った学生をも対象とした総合学生支援センター(TSSC)も完成し、独自の活動が期待されています。私達同窓生もしっかり支援していききたいものです。

二〇一一年度活動報告

書記 小田穂恵

* 地区だより発送作業・・・五月十一日 (十三名参加)

* ボランティア作業・・・「清鈴園」のお年寄りのための

下拭を縫う作業。奇数月(七、九、十一、一、三月)

* クリスマス会・・・十二月五日 コーラルホテルにて

讃美礼拝、昼食を共に親睦会(十七名参加)

* クリスマス献金(例年通り) 止揚学園、清鈴園、ケアセン

ターへ各二万円。キリスト教社会館へ一万円

* 母校へお祝い・・・二万円(大学ゲストハウス、TSSC)

* 地区会・・・三月十四日 楽々園公民館にて(九名出席)

二〇一二年 役員(昨年と同じ)

地区長 内山豊子 副地区長 有馬礼子 書記 小田穂恵

会計 増田公代 会計監査 大内妙子

幹事 野村久子、野坂登喜子、小田佐代子、藤原サナエ

中司久美子、宍戸るり子、平山純栄

二〇一二年 活動予定

* ボランティア活動を始めて十二年が過ぎ、参加者の高齢

化が増してきました。そんな折、市民センターでの場所(和

室)の確保も難しくなっています。日程の変更希望も出

ております。(奇数月の第二水曜日を第三水曜日に)もう少

し話し合つて、無理のないペースで活動を続けていきたいと

思います。変更の可能性があるため、参加を希望される方

は念のため、あらかじめ内山までご連絡ください。
電話 ○八二九・三一・三七二二

和歌

宮河 利恵

昨年、ふとした事で聖書のローマ人への手紙を読みました。五章の一節、五節は、「艱難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む。希望は失望に終わる事はない。私達には神の愛が注がれているから」という今の私達日本人を支えてくれる内容だと思いました。今回は、春を楽しみに待つ気持ちを感ぜられる喜びをかみしめながら作ってみました。

「春の訪れ」

春の日の午後に降りくる白い雪

風に乗りたる桜花かな

雨あがり草の匂いの立つ庭に

くもり空にも春のあかるさ、

春の陽と背中を受けるあたたかさ、

過ぎたる冬の重荷と下ろす

春が来て芽が出る様にすこしずつ

成長しながら一日と生きる

「六十五才で起業？」 中島和子

(高一六 大英一六)

「どうして今頃？」

と周りの人から呆れられながら、平成二二年十月二十日、「はつかの桜」をオープンしました。平成十年、認知症が始まりかけていた姑と私達を残して主人は逝きました。それから私は隣の姑の家に移り住み、介護の生活が始まりました。あつという間に十年が経ち、ふと気が付くと私はもう六〇代の半ばになるうとしていました。全て優先順位の一位は姑という生活に疲れてきました。空いている自分の家を利用し、姑のショートステイを利用しながら私の自己実現も出来る事はないかと、

無い知恵を絞りその結果がサロン「はつかの桜」の開業でした。毎月二〇日から一週間だけ姑をショートステイに預け、その間皆が気軽に集まってお喋り出来る「場」の提供をした

という気持ちから始めたのです。保健所や関係機関の許可申請などもクリアしましたら、呆れていたお友達達は強力なサポーターとなり、応援を続けてくれています。また同窓会のホームページで紹介下さった事もあり、同級生、先輩、そして後輩の皆さんが口コミで訪ねて来て下さいます。お店に特徴を持たせ

たいと考え、毎月テーマを決め、部屋の室礼を考え、ケーキもテーマに沿ったものをオリジナルで御近所の洋菓子店「フロイライン」で作って戴き皆様に楽しんで頂いております。最初はお茶だけと考えておりましたが、「食事もしたい」という声を頂き、廿日市に昔あった「大新の桶ずし」を子孫の九代目大新勝彦氏の応援を頂きお出ししています。異空間ではない普通の家のお店です。完全予約制で勝手な商売をさせて頂いています。主婦が一歩前に踏み出す力は、やはり女学院で学んだところから来ているのでしょうか？

おひとり様でいらしても、相席で話が弾む「はつかの桜」です。

* 今年の四月で九十八才になった姑は現在、特養「阿品漬鈴園」(ケアセンター)に入所中で元気でおります。

*** **

○三月二四日、地区会メンバー四名で、「はつかの桜」を訪れました。窓から広々とひろがるのどかな畑地に見えるお部屋で、最高のご接待をいただき、まるでタイムスリップしたかのような、一時を過ごすことができました。「はつかの桜」(電) ○九〇四六五九六四九 <http://hatsukanosakura.blog76.fc2.com/>

俳句

野村 久子

春光の空にしたがふ海の色

春の芽のはやくも風と遊びをり

斑猫はなみまの知り尽くしたる弥山道よせみち

鶏にわとりの尾の擦り切れし大暑かな

岩清水いわしみず掬む手に青き山の影

鳴き細りゆく畑ひくらしの夕ゆふごころ

天上にある静けさや大花野おおはなの

山ノ湯へ露けき橋を渡りけり

冬草の生きる力の青さかな

しんしんと雪かかんかんと槌つちの音

註 *班猫 春に出てくる甲虫の一種で、山間の路上に多く

人の進む先へ先へと飛ぶので、「道おしご」の異名あり

* 大花野 広々とした高山のお花畑

* 槌の音 夫が能面を作成の際に使う槌の音

先輩にインタビュー (五)

・石本幸江さんの巻・・・

今年石本幸江さん(高女四八、旧姓伊沢、現在、八八才)を地御前扇園のご自宅にお訪ねし、お話を伺いました。

生い立ち 大正二年(一九一三)四月一日、

広島市に八人兄弟の五女として生まれる。四人の姉達は猛勉強をして県女や市女に行つたが、幸江さんは無試験の広島女学院を選んだ。

広島女学院時代 昭和二年入学。とにかく

楽しかった。特に先生と生徒の仲が良かった。英語の授業は毎日あり、ター先生にはとても

親しくしていただいた。お年を召されたシャナン先生、若くて素敵な芝間先生も思い出す。

校風は自由で開放的、他と争わない平和主義。礼拝は毎日あり、ある時、賀川豊彦氏が話し

に来られた折、感動して多くの生徒が洗礼を受けた。幸江さんも受けようかと考えたほどであったという。卒業アルバムには、戦時中と

はいえまだ空襲などなく、良き学生生活がかがわれた。九州一周という豪華な修学旅行運動会、クリスマス、コンサート等々、

バルチコフさんが指揮をしておられるオーケストラの写真もあった。一つ戦時中を思わせる

のが、勤勞奉仕中の写真であり、広い耕地牛田山を女学生が緻で耕している様子があつた。

卒業後 (昭一六卒) スパイを疑われていた女学院生は就職も難しかったが、人づてで借行社という将校の買物店で働く事になった。折しも町中の家は強制疎開となり、榎町の姉の家から通つた。八月六日は前日から休みを取つて疎開先の家に帰つており被爆は免れた。姉は翌日義兄に背負われて帰宅したが、背中に傷を負つており一週間後に亡くなった。

結婚後二人の息子を育て上げ、約三十年前現在地に來てからは、少女時代から習つていて戦後師匠の免状を取つた三味線、長唄を教えた。平成一三年、七七才まで) 主人とは国内各地を旅行したが、二五年前に他界した。

同期会の計画や世話役を積極的に引き受けいつも二十人ばかりが集まつてよく各地を旅行したが、一九九六年ヒノハラホールでした会を最後にその後は五、六人の親しい友達だけの会となつた。今年の四月一日、八八才の誕生日には息子達の家族が集まつてくる事になっている。米寿を祝つてもらうのではなく幸江さんが御馳走をしてあげるためだとか。「人間、いつも もらうのではなく、与えることが大切」と。さすが女学院の卒業生と感服。

会員の声・・・通信欄より

○お世話様になっています。いつも原爆の日に母校に行つて歌う讚美歌三二二番「いつくしみ深き・・・」を今年は一足早く、五月に息子の結婚式で歌い、感慨を新たに致しました。

地御前 石本世紀子

○インタビュー(四)の記事をとて懐かしう拝見しました。先生方の名前を見るだけでも嬉しくなりました。

廿日市峰高 林田信子

○同級生が元気でいらしてびびくりしました。高女部に入学したときが創立五〇周年でした。とても楽しい学生生活でした。

美鈴が丘南 平井晶子

○地区長、書記の方々、大変お世話様になります。私身体の調子が不良で移転先も即答し難く失礼いたし申し訳ございませんでした。この園は、職員、寮母様達、筆舌につくしがたい人格の持ち主、唯々毎日感謝の中に送日して居ります。よろしくネ・・・

白木町 田中信子

○大学三年生。六月より女学院で教育実習生として勉強させていただきます。楽しみです。

五日市中央 織田千晴

○いつも会報をありがとうございます。楽しく拝読させていただいております。諸活動の

様子にも頭が下がります。いつかご一緒させていただきたいとも思っております。

佐伯区隅の浜 新本孝子

○いつも同窓会だより御送付頂き、ありがとうございます。又つたない娘の和歌を、おとり上げ下さり、感謝しています。ボランティアアお疲れ様です。いつか私も思っています。お目にかかれるのを楽しみに。

廿日市阿品 宮河加奈江

○いつもお世話になり有難うございます。短歌を掲載して頂き私も励みになっていきます。ボランティアに参加させて頂ければと思っております。よろしくお願い致します。

廿日市阿品 宮河 利恵

○名ばかりの幹事で申し訳なく思います。し

かし母校を忘れることはありません。今でも無形の恩恵を受けています。感謝です。
宮島 平山純榮

編集後記

今年のホームカミングデーは四月二十一日(土)、「cum deo laboramus 現在(いま)、私たちにできること」のテーマで二九六名の出席のもと、なごやかに開催されました。今年度から大矢みどり新会長の誕生です。同窓生の集まりには、いつも暖かい力を受けます。

皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。若い方々の同窓会活動への参加を期待しております。
内山

2011年度会計報告	会計	増田公代
○ 収入の部		
*前年度繰越金		351,177 円
*会費		332,000 円
*寄付		15,000 円
*貯金利子		92 円
収入合計		698,269 円
○ 支出の部		
*地区だより発送費		208,290 円
*上記以外の事務費		35,200 円
*献金、お祝い		90,000 円
*集会費他		19,380 円
支出合計		352,870 円
次年度繰越金		345,399 円
尚、50万円の定期預金があります。 会計監査 大内妙子(4月11日実施) ○2012年度の同窓会費1,000円を同封の振込用紙にてお納めくださるようお願いいたします。 (できればATM機にて)		